

◆ わたしの視点 20 ◆

市議会と行政の在り方

村上市の新年度予算も決まり、平成22年度がスタートした。予算の細部に付いては詳しく見ていないので論評は次の機会に出来たらと思っている。私が今、気に成っているのは村上市の議会と行政の在り方である。大切な議会の前日や定例議会中の委員会審査の前日に議員が酒席を設けて、行政職員である部課長を招請し懇談するなど呉越同州、言語道断である。市議会議員と云えども村上市に於ける政治家である。今、日本の政治の中で問題になっているのが「政と官」の関係の在り方だ。議員同士で酒を交えて議論を尽くす事があっても良いし、時には市長が政治家として議員と酒を片手に市政を語る事も良い。しかし市議会議員と行政職員は村上市の公僕として、互いの関係をわきまえて職務の遂行を計るべきだ。私の拙い回想録の中で書いた事であり私が常に思っている事だが、市長、市議会議員は市の条例や予算・事業などの政策を提案、決定する政治家である。対して、市行政職員は法のもと決められた事務、並びに市の条例に定められた事務・事業を行うと共に市長、市議会が決定した予算・事業など政策を市民に公平公正に執行する公僕である。両者に共通して求められる事は、市民の為に私心無く尽くすということだ。市の政治は市行政が施行する条例や政策を市民の暮らす現況と将来を考え決定する。市行政は地域(市)の中で法が定める義務と権利を有する市民が安心・安全・健康な暮らしを営む為に市の受け持つ業務を行う。その中で市長・市議会議員(政治家)は広範な分野の知識を持つゼネラリストである事が求められ、行政職員は特定分野について深い知識や優れた技術を持ったスペシャリストである事が求められる。先のわたしの視点でも申し上げた事だが、この両者の関係が上手く作用し、補完し合う事が市の政策の起案、執行に欠かせない要件であると考える。特に施策の提案を多く求められる市長に在っては市民の要望を見極め行政職員と緊密な中で事を進める必要がある。情報や資料は行政の中にこそ豊富にあり、その内容を良く知り、良く理解しているのは行政職員であるからだ。市長は行政職員が持つ能力と知識、情報を引き出し、自身が持つ政策の形成と具体的な実施に活用することが最善と考える。市議会議員は議会に提案された政策や行政職員が執行する事務・事業が適正か否かを議会議員として判断するに必要な知識を身に付けると共に、自身が議会で政策提案できる政治家としての能力を身に付ける必要がある。その為にも議会議員は行政の持つ情報、資料を得る活動と行政職員の持つ知識を吸収する努力を怠ってはならない。それにより市長、市議会議員が同じ土俵で討論できるものと私は考えている。しかしながら、議員が自分達の要望を実現する為に、または行政職員が理事者提案を可決させる為に議会、委員会前に酒席が設営されるとすればとんでもない話である。その手の会合は、議員と行政職員の間に変な力関係や上下の関係を作ってしまう。時として私心が入り、大切な判断を誤らせてしまう危険がある。市議会議員と行政職員が真剣に議論し、情報や知識を吸収する活動を行おうとするなら、現場か市役所の中で行われるべき事である。市議会議員と行政職員の

在り方を今一度考えて頂きたい。あまり市民に誤解を与える様な行動は慎み、市役所を行政運営の拠点として意見を交わし、活気ある行政運営に努めるべきでなかろうか。